

品」の附加価値向上に貢献し、水産業の持続的な発展を目指すとしています。

## ●防災拠点の形成

太平洋側と比較して災害リスクが少なく、天然の良港である優位性を生かして、災害支援などの防災拠点としての機能を強化することを目指し、耐震強化岸壁や防波堤を整備して、安全・安心に利用できる道央圏日本海側の防災拠点を形成するとしています。

## ●安全・安心な港湾空間の形成

小樽港の港湾施設は、建設後50年以上経過している施設が多く、老朽化対策の必要性が高まっています。このため、老朽化対策と機能強化を併せた整備を行い、安全・安心な港湾空間を形成するとしています。

### ● クルーズ拠点の形成

小樽市の観光入込客数は、毎年700万人を超えており、小樽観光の訴求力は高く、新型コロナウイルス感染症の流行終息後を見据えた観光振興の重要性は変わつていません。

図4 【施策のイメージ(案)】 第3号ふ頭及び周辺地区



《ハード施策》

【短中期】

- ・第3号ふ頭における大型クルーズ船対応岸壁、多目的旅客船ターミナル等の整備(再掲)
  - ・第3号ふ頭及び基部における交流広場、親水緑地、観光・商業施設等の整備
  - ・觀光船登着機能の強化 集約化

既刊用稿

- ・新たにクルーズ船2隻の受入を可能にするふ頭整備(再掲)

《ソフト施策》

【短中期】

- ・第3号ふ頭及び周辺地区のみなどオアシスの登録
  - ・第3号ふ頭と周辺地区におけるイベントの開催
  - ・民間活力導入による観光・商業施設の導入
  - ・ターミナル駅や結婚式場の係留による景観資源としての利用

・クルース

- #### 【短中期】・小型シーバスの運航による回遊性の向上

の整備、親水機能の向上を図ると  
しています。（図4）

●当所みなと観光プロジェクト

抑制するための産業振興策について、会頭の諮問したプロジェクトが事業実施に繋げる取り組みを進めおり、みなと観光プロジェクト（旧：港湾振興プロジェクト）では、「港を街（ちまた）に」をテーマに、クルーズ岸壁の供用開始を見越した第3号ふ頭基部の施設整備やにぎわいづくりについてコンテナを活用したカフェの設置等の実証実験や開発プランを策定するなど、独自の活性化策、再開発の方向を小樽市に提案してきま

成を目指し、官民による「第3号ふ頭を核とした魅力づくり連絡會議」でみなと観光づくりについて意見交換しています。

小樽港の主要機能である物流は最盛期に比べ減少していますが、街の中心部に近接している第3号ふ頭周辺は観光面のポテンシャルが高く、この優位性を活かした港の活性化は、小樽市全体の観光振興、産業振興に大きく寄与するものと考えます。

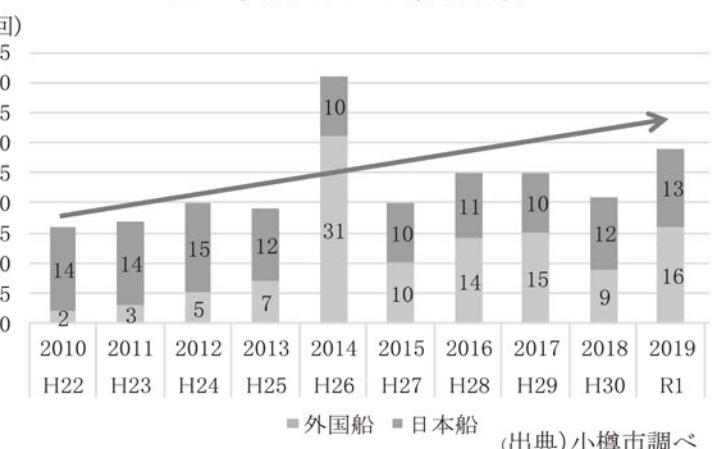
構想（素案）は、今後、パブリックコメントや関係者によって検討が加えられますが、今回、素案の段階で紹介したのは、小樽港の将来像は当所としても重要な懸案事項と捉えており、いち早く会員

号ふ頭及び周辺地区を大型クルーズ船の接岸場所として活用するとともに、みなと観光の拠点としてのにぎわいづくりを進めるため、平成26年6月に「第3号ふ頭及び周辺再開発計画」を策定し、国際旅客船対応岸壁の整備に着手しています。

また、「みなとオアシス」の認定による海陸観光交通の拠点機能強化や親水空間、市民交流空間の形

構想（素案）や第3号ふ頭を中心とした小樽港の活用方針と、当所が目指す方向は一致しております。今後も歩調を合わせて、物流をはじめ、安全対策、観光・交流拠点としての小樽港の開発や利活用など、賑わいづくりを推し進めて参ります。

## 樽港のクルーズ船寄港実績



辺地区を活用した観光・交流機能の状況や課題、目指すべき姿と施策について次のように整理していきます。

しかし、小樽港はクルーザー ミナル機能が未整備で、乗下船手続きの長時間化や物流機能との輻輳、バス駐車場や歓送迎行事のスペース確保が課題となっています。また、現在13万トン級までが受け入れ可能ですが、更に大型のクルーズ船への対応や、2～3隻の同時寄港の打診への対応が求められています。

文部省圖書

小樽港マリーナは、大型商業施設・ＪＲ駅に隣接した都市型マリーナとして利用者の人気が高く、「海の駅」にも登録されており、更なる発展が期待されます。

しかし、近年は船舶の大型化に伴い、計画上の隻数を確保できない状況にあります。また、運河では観光クルーズ等の利用増加に対応した係留能力の強化や、船舶

の輻輳の解消が求められます。そのため構想では、札幌市とのアクセスの利便性を生かし、多様なニーズに対応するマリンレジャー拠点としての発展を目指すとしており、マリーナにおける船舶大型化への対応や新たな船溜まりの整備などを行うとしています。

### ●交流空間の形成

小樽港の周辺には、小樽運河をはじめ、旧日本銀行小樽支店、旧国鉄手宮線跡などの歴史的観光資源や、運河クルーズ、飲食店や土産店等の商業施設があり、多くの観光客が利用しています。しかし、みなと観光の潜在的な魅力を引き出し切れておらず、交流拠点の充実や港湾ならではの観光・交流空間の創出と既存観光資源との回遊性向上を図る必要があります。

そのため、構想では、「第3号ふ頭及び周辺地域」と「マリーナ周辺地域」に賑わい空間の拠点を形成するとともに、周辺の観光拠点との回遊性を高め、滞在型観光や、みなと観光の拠点としての発展を目指すとしており、港湾施設を活用した観光振興、第3号ふ頭及び基部における交流広場や商業施設